

鎌倉の景観

(鎌倉市景観計画の実績報告)

平成21年度版

景観づくり賞



景観重要 建築物等



鎌倉市

平和都市宣言

われわれは、日本国憲法を貫く平和精神に基いて、核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、全世界の人々と相協力してその実現を期する。

多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、ここに永久に平和都市であることを宣言する。

昭和 33 年 8 月 10 日 鎌倉市

鎌倉市民憲章

前 文

鎌倉は、海と山の美しい自然環境とゆたかな歴史的遺産をもつ古都であり、わたくしたち市民のふるさとです。

すでに平和都市であることを宣言したわたくしたちは、平和を信条とし、世界の国々との友好に努めるとともに、わたくしたちの鎌倉がその風格を保ち、さらに高度の文化都市として発展することを願い、ここに市民憲章を定めます。

本 文

- 1 わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
- 1 わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
- 1 わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
- 1 わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。
- 1 わたくしたちは、鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。

昭和 48 年 11 月 3 日 制定

はじめに

わが国を代表する歴史的文化都市である鎌倉では、その歴史とともにつくられてきた良好なまち並みを後世に伝えるため、これまでまちづくりに関する様々な施策を推進してきました。

平成 8 年に施行した都市景観条例では、市民との協働による景観づくりの仕組みを整え、平成 16 年の景観法制定を受けて、平成 17 年 5 月に景観行政団体となり、平成 19 年 1 月には景観計画を策定しました。

本市の景観計画は、平成 8 年からの景観行政の蓄積をもとに、景観形成の基本理念・目標を定めるとともに、市域を土地利用の現状にあわせ 21 区分し、区域毎に景観形成の方針・基準をきめ細かく定めたもので、景観法に基づく届出・勧告制度により、一定規模以上の建築行為や開発行為等の景観誘導に取り組んでいます。

平成 20 年 3 月には、景観計画の実現化方策に沿って、鎌倉駅・北鎌倉駅周辺の市街地を対象に建築物の高さや色彩等の制限を定める景観地区の都市計画決定を行い、長年の懸案事項であった中心市街地の景観づくりに一定の方向付けを行いました。

このように本市の景観施策は、景観計画(実現化方策)に沿って推進するもので、これを的確に推進するためには、施策の進捗状況を常に確認するとともに、事業の効果を市民と行政が共有することが必要です。このため、平成 20 年度(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日)における実績をまとめ、公表いたします。

目 次

はじめに

景観法・関連法令等を活用した都市景観の形成

地区の個性を活かした都市景観の形成

地区プランの策定	1
景観地区の指定	3
地区計画制度の活用	5
高度地区の指定	7
特別用途地区の活用	8
市街地の緑の創造	9
制度活用における諸課題への対応	10

景観資源を核とした都市景観の形成

歴史的風土保存区域や風致地区の活用	11
特別緑地保全地区、近郊緑地保全区域等の活用	12
歴史的建造物の保全と活用	13
眺望景観の保全・創出	15
地域資源の保全と整備	16
かまくら景観百選の活用	17
屋外広告物の規制誘導	18

ベルトや拠点を中心とした都市景観形成事業の推進

快適なみちづくり	20
水辺の環境づくり	22
みどりのまちづくり	23
魅力的な建物づくり	24

市民・NPO・事業者との協働・支援

景観づくり賞の実施	25
シンポジウム、講演会の開催	27
市民活動の支援	28

【内容】部分の記述については、鎌倉市景観計画 第5章 実現化方策の推進施策の記述と同様となっています。

景観法・関連法令等を活用した都市景観の形成

地区の個性を活かした都市景観の形成

地区プランの策定

【内容】

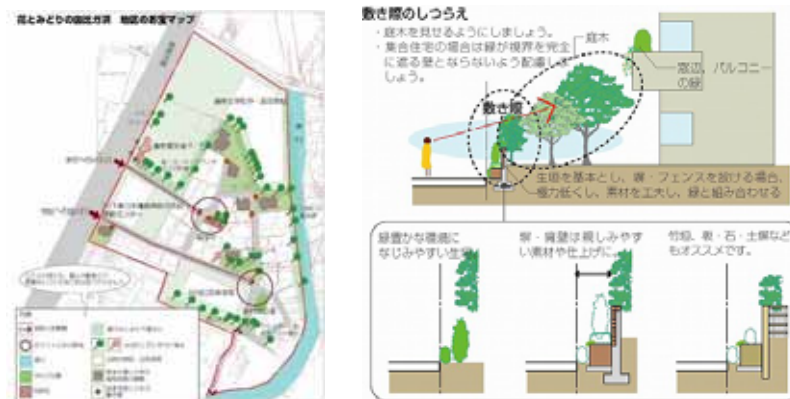
景観計画（土地利用類型別景観形成方針・基準等）をベースに、地区毎のより詳細な景観づくりの考え方を示す地区プランを策定・提示し、地区の個性を活かした景観形成を能動的、戦略的に進めます。策定した地区プランを素材に景観計画の充実（特定地区の指定等）や建築行為等の景観誘導に取り組みます。また、地域の文脈、景観形成の作法等をわかりやすく伝えるガイドラインを作成します。

【推進方法】

市全域を対象に継続的に取り組みます。拠点やベルトの位置付けのある場所、地区住民の発意のある場所等において優先的に取り組みます。

【実績】

由比ガ浜二丁目地区ではまちづくり条例に基づく自主まちづくり計画（「花とみどりの由比ガ浜まちづくり計画」）が策定され、平成 20 年 10 月に市長に提案されました。



花とみどりの由比ガ浜まちづくり計画



富士見町町内会自主まちづくり計画

大船駅南部地区ではまちづくり条例に基づく自主まちづくり計画（「富士見町町内会自主まちづくり計画」）が策定され、平成 21 年 1 月に市長に提案されました。

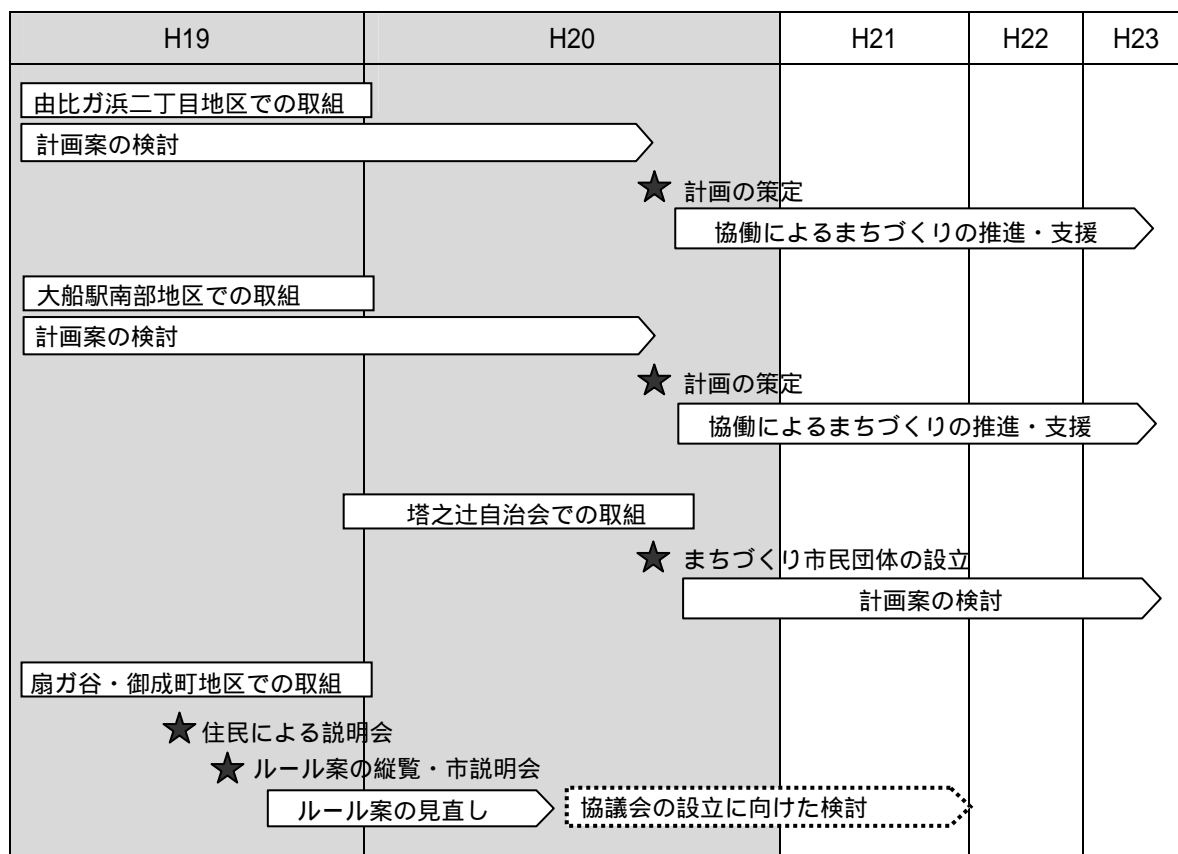
由比ガ浜一丁目・御成町・笹目町の住民（塔之辻自治会）により、まちづくり条例に基づくまちづくり市民団体が平成 21 年 1 月に設立されました。

扇ガ谷・御成町地区では、地区の地権者等により、景観地区景観形成協議会の設立に向けた準備・検討が行われました。

【今後の施策の方向性】

由比ガ浜二丁目地区・大船駅南部地区では、「花とみどりの由比ガ浜まちづくり計画」・「富士見町町内会自主まちづくり計画」(自主まちづくり計画)に基づいて、地区住民と市の協働によるまちづくりの推進を図ります。また、法的拘束力のある制度(地区計画等)への移行のための支援を行います。

塔之辻自治会ではまちづくり条例に基づく、自主まちづくり計画策定の支援を行います。扇ガ谷・御成町地区では、地区のまちづくりについて継続して、住民と協議を進めます。



自主まちづくり計画(まちづくり条例第31条)

一定の地区の住民により構成する団体は、快適な居住環境の保全と創造を図るための自主的な計画を策定し、自主まちづくり計画として、市長に提案することができます。自主まちづくり計画を策定する団体は、当該一定の地区の住民の大多数により構成されていると認められ、また、その活動が地区住民の大多数の支持を得ていることが必要です。市は、自主まちづくり計画の提案を受けたときは、その周知に努め、市が実施する施策に反映させるよう努めなければなりません。なお、自主まちづくり計画が定められた地区において開発事業を行おうとする者は、当該開発事業の計画を自主まちづくり計画と調和させるよう努めることが必要となります。

景観地区の指定

【内容】

若宮大路を中心とした市街地、ベルトや拠点に位置付けられた場所など、特に魅力的な都市景観の形成が求められる地区を景観地区として指定し、建築物の形態意匠や高さの最高限度などを定め、市街地の良好な景観誘導を図ります。

【推進方法】

若宮大路や北鎌倉駅の周辺市街地など、周囲を歴史的風土に囲まれた市街地を先行して地区指定に取り組みます。その後も引き続き、ベルトや拠点に位置付けられた場所を中心に地区住民の発意、市街地整備の進行状況にあわせ、随時地区指定の検討を行います。

【実績】

若宮大路周辺の市街地及び北鎌倉駅周辺の市街地を景観地区（鎌倉景観地区・北鎌倉景観地区）に指定し(平成 20 年 3 月 1 日)、建築物の規制・誘導に取り組んでいます。

なお、北鎌倉景観地区の東寄りのエリアである北鎌倉東地区では、更に詳細な地区独自のルールを策定するため、平成 20 年 5 月に地元住民による協議会が設立され、7 月には都市景観条例に基づく景観地区景観形成協議会の認定を受け（北鎌倉東地区景観形成協議会）、市との協働によるルールづくりが進められています。

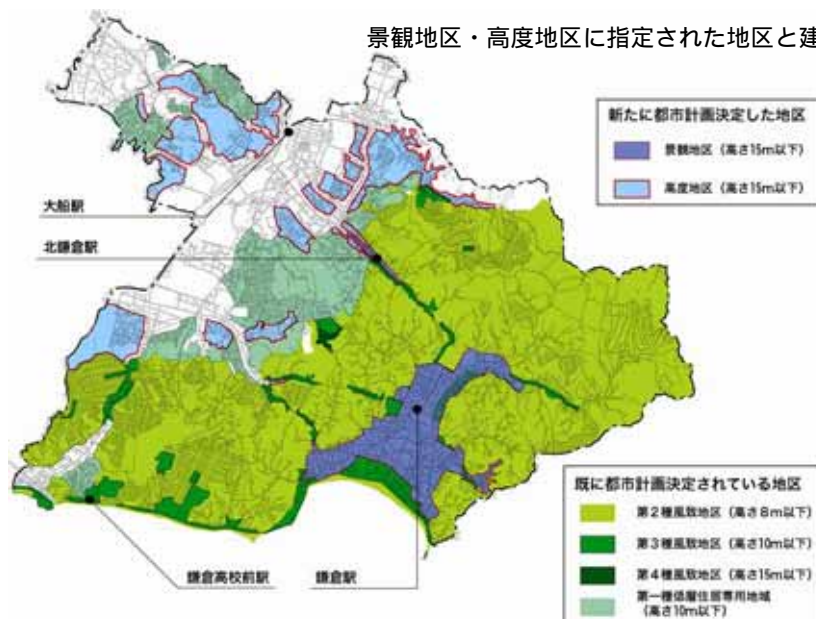
協議会認定後、役員と市による検討会を 5 回開催した他、アンケートによる住民の意見聴取等を実施し、ルール及び景観づくりのガイドラインの案をまとめました。

鎌倉景観地区	約 224.8ha	平成 20 年 3 月 1 日告示
北鎌倉景観地区	約 7.2ha	平成 20 年 3 月 1 日告示

景観地区の認定申請件数	
平成 20 年度	154 件

景観計画の届出件数（参考）		
開発行為 建築行為	平成 20 年度	138 件
工作物	平成 20 年度	194 件

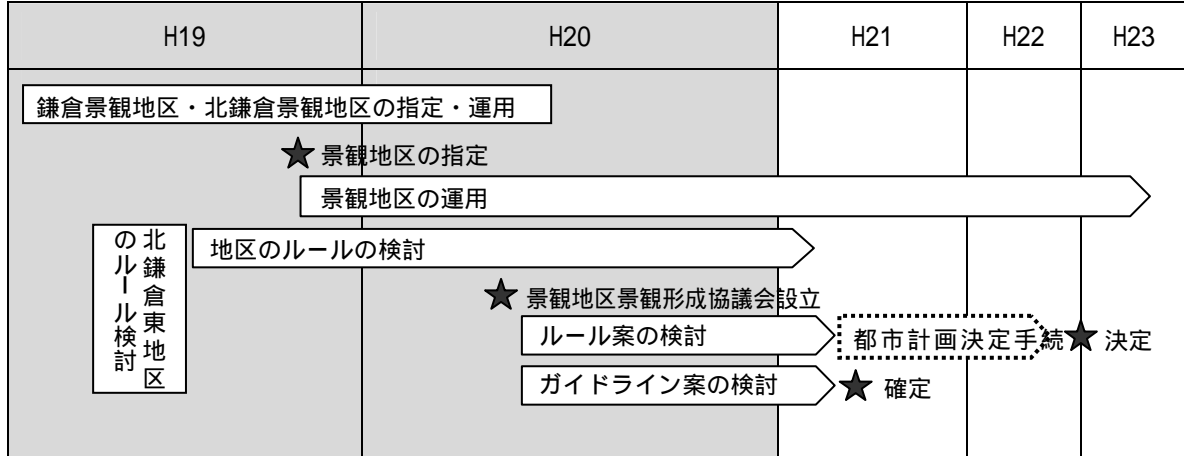
景観地区・高度地区に指定された地区と建築物の高さの制限



【今後の施策の方向性】

制度の普及啓発に努め、地区住民の合意の熟度に応じて、新規地区の指定や既指定地区のルールの見直しに積極的取り組みます。また、まちの成長管理に住民自らが係わる景観地区景観形成協議会の設立に向けた支援を行います。

北鎌倉東地区については、地区独自のルールづくりに向け、引き続き住民との協働による検討を進めます。



地区計画制度の活用

【内容】

地区の計画的整備と良好な都市景観の形成が同時に求められる場所においては、地区計画制度を活用して適切な景観誘導を図ります。また、市独自や任意の制度（自主まちづくり計画、景観形成地区、住民協定等）により、まちづくりに取り組んでいる地域においては、法的位置付けのある景観計画（特定地区の指定等）や地区計画への移行を目指します。

【推進方法】

既にまちづくりに取り組んでいる地域を中心に、市政情報宅配便の実施等により制度の普及啓発に取り組みます。

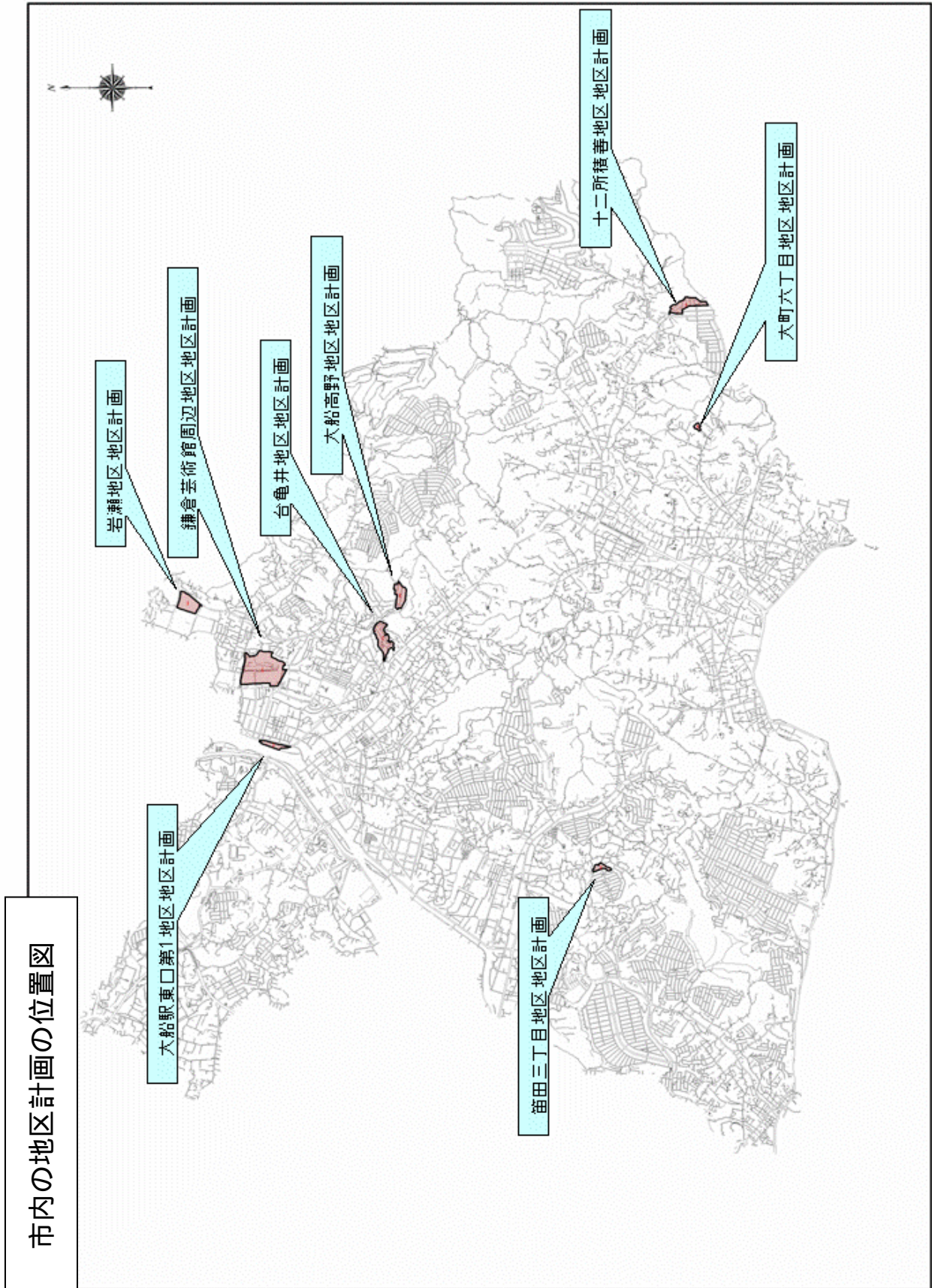
【実績】

新鎌倉山住宅地（津、津西）では、自治会から地区計画制度の活用の相談を受け、平成19年8月頃から、地区計画制度の説明会等、地区住民との協議を行っています。

【今後の施策の方向性】

既にまちづくりに取り組んでいる地域を中心に、市政情報宅配便などで地区計画制度の普及啓発に努め、地区計画に移行するための意識醸成・支援を行います。

H19	H20	H21	H22	H23
	新鎌倉山住宅地での取組 住民勉強会	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ルール検討後、住民合意を経て、 地区計画策定手続 </div>		
		地区のルールづくり 市政情報宅配便などを実施		



高度地区の指定

【内容】

良好な居住環境の保全や、既成市街地における魅力的な都市環境・都市景観の形成を図るため、高度地区の指定を積極的に行い、地域特性に応じた建築物の高さの規制・誘導を行います。

【推進方法】

風致地区、景観地区、第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域以外の高さ制限のない地域において、関係機関との調整を経て、高度地区指定の検討を行います。

【実績】

風致地区、景観地区を除く第一種中高層住居専用地域（約 340ha）を高度地区に指定し（平成 20 年 3 月 1 日）、建築物の高さ規制・誘導に取り組んでいます。

（高度地区の指定区域は 3 頁に掲載）

【今後の施策の方向性】

市街地の土地利用の状況を踏まえ、地域特性に応じた建築物の高さの規制・誘導の検討を行います。

鎌倉高度地区	約 340ha	平成 20 年 3 月 1 日告示
--------	---------	-------------------

H19	H20	H21	H22	H23
	☆ 高度地区の指定・運用			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 高度地区の運用 </div>			
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 高さの規制 誘導の検討 </div>		

特別用途地区の活用

【内容】

土地利用の純化によるまとまりある都市景観の形成を図るため、特別用途地区の活用に取り組みます。景観法による規制・誘導施策（景観計画・景観地区）は、建築物の用途を定めることができないため、景観法と特別用途地区の併用についても検討します。

【推進方法】

特別用途地区の活用にあたっては、住民の合意形成の熟度に応じて制度の活用を検討します。

【実績】

景観だけでなく建物用途についても制限を加えたいというニーズはあるものの、制度が複雑になるなどの理由から現時点では特別用途地区の活用には至っていません。

【今後の施策の方向性】

市政情報宅配便などで法制度の理解を深め、合意形成の熟度に応じて制度の活用を検討します。

市街地の緑の創造

【内容】

周辺の山並みと調和した、緑豊かな市街地の創造を目指し、緑化地域や緑地協定などを活用し、都市の緑と市街地のまち並みが一体となった都市景観の形成を進めます。また、市街地の良好な景観を形成する屋敷林などの価値を明確にし、土地利用転換等が行われる際に既存樹木が保存されるような仕組の検討もあわせて行います。

【推進方法】

緑豊かな市街地の形成を図るため、民有地に対するまちづくり事業と連携した緑化や接道緑化を誘導していくとともに、風致地区や開発事業区域内での緑化を推進します。

【実績】

自主まちづくり計画などの制度と連携し、まち並みのみどりの奨励事業による接道緑化の支援を行ったほか、風致地区や開発事業区域内での緑化指導を行いました。

【今後の施策の方向性】

引き続き、まちづくり事業との連携による緑化や市民の緑化活動への支援などを通し、緑豊かな市街地環境を形成する緑のネットワークの形成に努めます。

まち並みのみどりの奨励事業 の実績

	平成 20 年度
補助金交付件数	24 件
植栽延長	301.7 m
植栽本数	856 本

まち並みのみどりの奨励事業

緑豊かなまち並み景観を創造するため、道路に面して緑化(接道緑化)をする方に対して、その経費の一部を補助しています。対象となる接道緑化は、住宅・店舗・事業所等の敷地及び駐車場に新たに植栽する樹木又は生け垣で、その延長が3m以上のものです。

また、植栽後、少なくとも5年間は接道緑化として活用することが必要です。補助金の額は、市が定めた標準経費と工事予定額を比較し、廉価な額に1/2を乗じて算出します(限度額150,000円)。但し、地区計画が定められた区域、景観形成地区などで接道緑化の取り決めの場合は、補助率が2/3になります。

制度活用における諸課題への対応

【内容】

景観形成を効果的に推進するために、関連法令等の活用とともに法改正への対応や新たな制度導入に積極的に取り組みます。

【実績】

- ・建築基準法の規制緩和に伴う斜面地マンション等の課題に対応するため、建築基準法第50条に基づく斜面地等の構造の制限に関する条例を施行しました(平成20年9月1日)。
- ・北鎌倉東地区(北鎌倉景観地区の東寄りの地区)においては、都市景観条例に基づく景観地区景観形成協議会(北鎌倉東地区景観形成協議会)設立にあわせ、同条例施行規則を改正し、地区内で建築行為を行う場合、景観形成協議会へ事前意見聴取を行うことを義務付けました。
- ・葬祭場の設置等に関する指導要綱及びコインパーキングの設置等に関する指導要綱を施行しました(平成20年8月1日)。
- ・市民との協働によるまちづくりを推進するため、これまで自主まちづくり計画策定時のみに限定していた専門家派遣の対象を地区計画や建築協定にも行うことができるようまちづくり条例(第32条)を改正しました(平成21年4月1日施行)。

【今後の施策の方向性】

- ・景観形成協議会等への意見聴取の効果的な運用方法の検討を進めます。
- ・本市のまちづくり施策の見直しを行い、まちづくり条例及び開発事業等における手続及び基準等に関する条例の総体的な整理を行います。またこれにあわせ、良好な居住環境の確保を図るため、必要な基準を見直します。
- ・景観形成を効果的に推進するために、関係法令等の活用とともに法改正への対応や、基準適合だけでなく、新たな価値を創造する制度導入に積極的に取り組みます。

H19	H20	H21	H22	H23
	斜面地マンション等の対応 ★住宅地下室の容積率緩和制限の条例施行 ★斜面地等の構造の制限に関する条例施行			
	景観形成地区の運用 ★景観形成協議会への意見聴取を義務付け 都市景観条例の改正			
	葬祭場・コインパーキング ★要綱の制定			
	要綱の検討	葬祭場・コインパーキング要綱の運用		
	まちづくり条例			
				★まちづくり条例・手続基準条例の見直し
				条例改正の検討 ★ まちづくり条例の改正

景観資源を核とした都市景観の形成

歴史的風土保存区域や風致地区の活用

【内容】

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（以下「古都保存法」という。）により指定された歴史的風土保存区域を継承し、歴史的風土の保存を図ります。また、緑地としての活用も含めた、樹林管理や防災対策についても検討を進めます。風致地区においては、その特色を活かしながら、自然環境と調和した風致景観の維持・創造を図ります。

【推進方法】

- ・ 古都保存法により指定された歴史的風土保存区域を継承し、歴史的風土の保存を図ります。
- ・ 風致地区については、その特色を活かしながら、自然環境と調和した風致景観の維持・創造を図ります。



風致地区指定概略図

【実績】

風致地区条例等に基づき、地区内の建築行為、土地形質の変更等の規制・誘導を行いました。

風致地区、歴史的風土保存区域等の許認可等件数		
風致地区内行為許可等	平成 20 年度	701 件
歴史的風土保存区域内行為届	平成 20 年度	133 件
歴史的風土特別保存地区内許可申請等	平成 20 年度	118 件

【今後の施策の方向性】

- ・ 現行の歴史的風土保存区域の樹林地部分について、歴史的風土特別保存地区の指定拡大を県に要請します。
- ・ 新たに歴史的に重要な文化的資産が発見され、周囲の自然的環境と一体となった歴史的風土の保存が必要となるなどの場合は、歴史的風土保存区域の指定を国に働きかけます。
- ・ 現行風致地区指定区域につながる丘陵の樹林地(近郊緑地保全区域の拡大区域、特別緑地保全地区の指定地、台峯の鎌倉中央公園拡大計画地一帯、183.9ha)の風致地区の指定拡大に努めます。

特別緑地保全地区、近郊緑地保全区域等の活用

【内容】

市街地のまち並みにうるおいを与える丘陵地の緑を保全するため、特別緑地保全地区や近郊緑地保全区域等の保全制度を活用した緑地の保全を進めます。

【推進方法】

市街地のまち並みにうるおいを与える丘陵地の緑を保全するため、特別緑地保全地区や近郊緑地保全区域等の保全制度を活用した緑地の保全を進めます。

【実績】

- ・平成 20 年度は、円海山・北鎌倉近郊緑地保全区域のうち鎌倉市域の特別保全地区候補地(岩瀬地区)において、自然環境調査、土地所有者との調整等を行いました。
- ・平成 20 年 9 月 16 日に、天神山特別緑地保全地区（約 5.0ha）を指定（都市計画決定）しました。



天神山特別緑地保全地区

【今後の施策の方向性】

- ・近郊緑地保全計画に沿って、近郊緑地保全区域内の重

首都圏近郊緑地保全区域内の行為届件数		
首都圏近郊緑地保全区域内行為届	平成 20 年度	7 件

要な緑地の近郊緑地特別保全地区の指定を、県との連携により進めます。

- ・10ha 以上の規模を有する特別緑地保全地区の指定計画地は、県による指定を要請します。
- ・特別緑地保全地区の指定候補地の選定に向けた取組を進めます。

H19	H20	H21	H22	H23
	特別緑地保全地区の指定に向けた検討			
	★ 寺分一丁目特別緑地保全地区を指定	★ 天神山特別緑地保全地区を指定		
	近郊緑地特別保全地区の指定に向けた検討			

歴史的建造物の保全と活用

【内容】

現行の景観重要建築物等の制度を継承し、さらに景観法、都市緑地法、文化財保護法等による近代建築物等の保全制度を積極的に活用し、本市独自の保全・活用手法の検討を行います。

【推進方法】

景観重要建築物等の制度を活用し、点的な保全から線的・面的な保全へ取組を拡大します。(既指定の景観重要建築物等の再評価により、建造物単体の保全から周辺の景観形成へと取組を広げます。)既指定物件のほか、市内の歴史的建造物の調査・評価を通じて、本市独自の保全・活用手法の研究を進めます。

【実績】

- ・景観重要建築物等を2件(野尻邸(旧大佛次郎茶亭)、加賀谷邸)指定しました。
- ・景観重要建築物等の修繕の費用助成を行いました。(延べ9件、4,647千円)
- ・旧華頂宮邸の施設公開、保全活用の検討を行いました。
- ・景観資源調査をもとに、歴史的建造物の保全活用の施策の検討を行いました。



野尻邸(旧大佛次郎茶亭)
(景観重要建築物等 指定第30号)

【今後の施策の方向性】

- ・景観重要建築物等の指定や登録有形文化財の制度の活用を進めます。
- ・景観重要建築物等の維持修繕の支援を行います。
- ・旧華頂宮邸の施設公開の他、本格活用に向けた活用検討協議会を設置し、保全活用の検討を行います。
- ・景観重要建造物(景観法)の制度活用も視野に入れ、歴史的建造物の保全活用の施策の検討を行います。



加賀谷邸(景観重要建築物等 指定第31号)

H19	H20	H21	H22	H23
	景観重要建築物等の維持修繕			
	★景観重要建築物等の指定		★景観重要建築物等の指定	
	旧華頂宮邸の施設公開、保全活用の検討			

旧華頂宮邸の公開実績(平成20年度)

庭園公開(月・火曜日を除く毎日): 来園者数 15,196名

建物内部公開(4月・10月の2回、各2日間): 来園者数 2,816名

鎌倉市景観重要建築物等一覧

(平成21年3月現在)

指定	建築物の名称	指定	建築物の名称
第1号	鎌倉文学館(旧前田家別邸)	第17号	高野邸
第2号	伊藤邸(旧望洋楼)	第18号	村上邸
第3号	篠田邸(旧村田邸)	第19号	旅館対僊閣
第4号	寸松堂	第20号	笹野邸
第5号	日本基督教団鎌倉教会会堂	第21号	のり真安齋商店
第6号	日本基督教団鎌倉教会付属ハリス記念鎌倉幼稚園	第22号	三河屋本店
第7号	かいひん荘鎌倉	第23号	東勝寺橋
第8号	石川邸(旧里見淳邸)	第24号	橋亭
第9号	山崎邸 【平成15年12月24日に指定を解除】	第25号	湯浅物産館
第10号	川合邸	第26号	去来庵
第11号	鎌倉聖ミカエル教会聖堂	第27号	ホテル ニューカマクラ
第12号	鎌倉市長谷子ども会館(旧諸戸邸)	第28号	平井家住宅・長屋門
第13号	白日堂	第29号	旧華頂宮邸
第14号	小池邸	第30号	野尻邸(旧大佛次郎茶亭)
第15号	石島邸	第31号	加賀谷邸
第16号	旧安保小児科医院		

国登録有形文化財建造物

(財)鎌倉風致保存会 保存建造物

眺望景観の保全・創出

【内容】

本市の地形的な特性を視覚的に認識することができる、優れた眺望景観を保全・創出し、さらにその印象を高めていくため、眺望景観の視点からの都市景観の形成に積極的に取り組みます。このため景観法（他）、都市計画法（高度地区）、建築基準法（総合設計制度）との連携による効果的な規制・誘導施策の検討に取り組みます。

【推進方法】

景観計画（平成 19 年 1 月策定）に位置付けた 33 の眺望点からの眺望の経年変化を調査し、眺望景観の保全及び魅力向上の手法を景観計画の運用に併せて研究します。また、眺望景観の保全のため、景観地区・高度地区の指定に取り組みます。

【実績】

景観計画に基づき、眺望景観の視点から建築行為等の景観誘導（建築物の高さ・配置・デザイン、屋上設備等）に取り組みました。

【今後の施策の方向性】

建築物単体、まち並みレベル（近景）だけではなく、眺望景観の視点からも建築行為等の景観誘導に取り組みます（中～遠景）。また、眺望景観保全・創出の重要性の周知に努めます。今後は、さらに高度地区との連携（総合設計制度の許可基準化）等により、眺望の視点から、効果的な規制・誘導手法の制度化に向けた検討を行います。

H19	H20	H21	H22	H23
	眺望景観の視点から建築行為等の景観誘導			
★	景観地区・高度地区の指定			
	景観地区・高度地区の運用			
★	経年変化調査			
		効果的な規制・誘導手法の検討		

地域資源の保全と整備

【内容】

石碑、道標、道祖神や樹木、優れた生け垣、屋敷林、十橋・十井・五名水などを地域景観資源と位置付け、地域住民との価値観の共有に努めます。市民・NPOとの協働により、これら景観資源の保全・整備手法の検討に取り組むとともに、地域の景観づくりの拠りどころとして活用します。

歴史的建造物をはじめとする景観資源のデータベースを作成します。

【推進方法】

建築物・工作物の他、石碑、道標等、地域資源を景観資源として幅広く捉え、その保全・活用を通じて景観形成に取り組みます。これらの保全・活用には、景観施策の他、文化財等、他の制度の活用が必要となることから、関連部署との連携を強化します。また、市民・NPO等と、この様な景観資源の価値観の共有に努めるとともに、景観資源の情報管理に取り組みます。

【実績】

平成 19 年度に実施した景観資源調査を基に、歴史的建造物のデータベースの作成と景観法により創設された景観重要建造物・樹木の制度活用の検討を行いました。

【今後の施策の方向性】

景観法により創設された景観重要建造物・樹木の制度活用の検討を行います。

景観資源が生み出す歴史的景観の維持継承や、景観資源周辺の良い景観形成を図るために、景観資源が生み出す景観特性を明らかにし、景観資源周辺の建築行為等に対する建築作法やデザインなどを示したガイドラインの検討を行います。

また、景観資源のデータベースの情報管理を行います。

H19	H20	H21	H22	H23
★ 景観資源調査	データベースの作成	データベースの管理		
	保全活用手法の検討			

かまくら景観百選の活用

【内容】

平成 11 年に選定したかまくら景観百選の P R を通じて「鎌倉らしい景観」、「鎌倉の景観を構成する重要な要素」を多くの市民に伝えます。また、かまくら景観百選に選定された風景の維持・継承、景観資源としてまちづくり、景観づくりへの積極的な活用に向けた施策展開に取り組みます。

【推進方法】

冊子販売の他、ホームページ掲載等、様々な場面を通じて、P R を行います。また、地域の景観資源と位置付け、その活用などに取り組みます。

【実績】

建築行為等の土地利用計画に対し、地域の景観資源として配慮を求めるとともに地域のデザインコードとして活用するなど、デザイン協議の際の指標として活用しました。

また、鎌倉らしさのイメージを市民間で共有し、さらに具体化することを目指し、冊子の作成・販売、ホームページでの紹介、イベントの開催・後援などを通じて、景観資源の普及・啓発に取り組みました。

多くの市民・来街者への周知のため、かまくら景観百選の冊子を市内書店で販売しました。



かまくら景観百選の冊子
市内書店で販売中

【今後の施策の方向性】

冊子の販売（改訂）イベント・セミナーの開催、市政情報宅配便等を通じて、今後もかまくら景観百選などの景観資源の普及啓発に努めます。

普及啓発と並行して景観資源の定点観測を定期的に行うことにより、その効果を検証します。

H19	H20	H21	H22	H23
普及啓発				
保全活用の検討				
		★ 定点観測		
		★ 冊子改訂		

かまくら景観百選

かまくら景観百選事業は、「鎌倉のまちの魅力とは何か」を市民とともに考えることによって、景観づくりの意識を高めること、地域の景観資源を明らかにすることを目的に実施。平成 11 年 7 月、市民参画により、「鎌倉らしい、代表的な景観」、「鎌倉の景観を構成する重要な要素」86 件を選定。

屋外広告物の規制誘導

【内容】

景観計画（第4章5．屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項）及び神奈川県屋外広告物条例に基づき適正な規制・誘導を行います。また、市独自の屋外広告物条例の制定により、歴史・文化・活力など、都市の風格や賑わいを演出する美しさを持った広告物の誘導を目指します。さらに、市民の協力を得て、地域と行政が一体となり、違反屋外広告物を表示させない環境づくり、まちづくりを推進します。

【推進方法】

景観計画及び神奈川県屋外広告物条例に基づき、広告物の規制・誘導に取り組みます。これと並行して、モデル地区による屋外広告物の実態調査、シミュレーション等を行い、本市独自の広告物条例策定に向け研究を進めます。

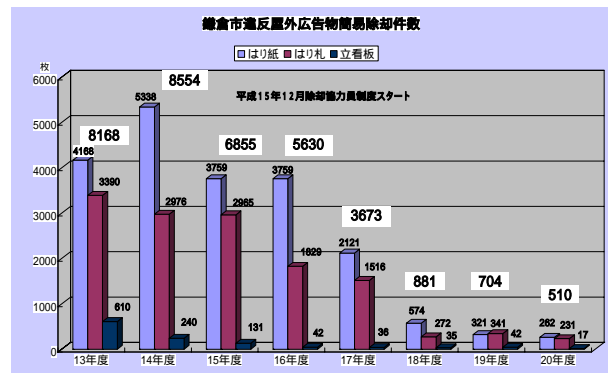
また、市民、事業者等の屋外広告物に対する意識啓発にも積極的に取り組むとともに、市民に違反屋外広告物の簡易除却の権限を委嘱し、協働により除却活動やキャンペーンなどの啓発活動を実施します。

【実績】

景観計画及び神奈川県屋外広告物条例に基づき、屋外広告物の設置位置・規模・デザイン等について規制・誘導を行いました。また、平成18年度に実施した違反屋外広告物実態調査の成果を基に、引き続き未申請物件の処理に取り組み、本市の広告物掲出の実態把握を行いました。

禁止物件等に掲出された違反屋外広告物に対しては、職員・業者委託による簡易除却の他、違反屋外広告物除却協力員（平成20年度は、58名を委嘱）との連携により510件の簡易除却を行いました。除却協力員制度の創設（平成15年度）後、市民の継続的な活動により、違反広告物をまちに氾濫させない仕組みが確立されました。その他、広告業関係団体、宅地建物取引業協会、警察署、商店会等と協力し、屋外広告物制度の普及啓発を図るキャンペーンを2箇月に1回の頻度で実施しました。

	許可件数	除却件数
平成20年度	140件	510件



違反屋外広告物 簡易除却件数の推移



市民や商店会等との連携による除却キャンペーン

市独自の屋外広告物条例制定に向けて、屋外広告物がまち並み形成に果たす役割を市民・事業者と共に考えることを目的に屋外広告物をテーマに景観づくり賞（顕彰事業）を実施しました。テーマを「まち並みをつくる素敵なかんばん」とし、景観形成推進委員が市民の代表として募集から選考までを行いました。景観づくり賞6件、特別賞3件、奨励賞3件を決定し、表彰イベントには多くの市民が参加しました。事業の成果として、景観づくり賞の応募・受賞作品の紹介と屋外広告物のデザイン作法をまとめたパンフレットを作成しました。今後、屋外広告物のデザイン協議や市民・事業者に向けた普及啓発に活用していきます。

【今後の施策の方向性】

本市の特性に合わせた市独自の条例制定（許可基準の設定）に向けた検討を行います。条例制定にあたっては、市民・事業者等の理解と協力が必要なことから、景観づくり賞の成果等の活用により普及啓発を行い、市民・事業者等の意識醸成に取り組みます。また、今後も除却協力員との連携により市内の違反広告物の除却に努め、違反広告物が掲出されない環境づくりを行います。

H19	H20	H21	H22	H23
	屋外広告物の適正な規制・誘導			
	市条例制定の検討			
	景観づくり賞実施に向けた検討	★ 景観づくり賞実施		
	違反屋外広告物除却協力員との連携			

ベルトや拠点を中心とした都市景観形成事業の推進

快適なみちづくり

【内容】

快適で魅力的な道路空間の創出が都市のイメージを高めることから、無電柱化の推進、ストリートファニチャーの整備、ポケットパークの創出など、公共施設による先導的な景観整備を進めます。また、鎌倉の歴史性・文化性を活かし、市民や観光客にわかりやすく美しい公共サインの整備を進め、道路空間の魅力を高めます。特にベルトや拠点においては、神奈川県等公共施設管理者と連携し、市民等の意見を聴きながら、魅力ある道路空間創出のための整備方針を策定します。また、オープンカフェの実施など道路空間を活用したまちの活性化の検討を行います。

【推進方法】

景観計画に基づき、景観重要公共施設の整備・占用許可を行います。また、景観ベルトにおける神奈川県及び鎌倉市の公共施設管理者が情報交換を行い、調整を行う場を設定し、良好な景観形成を推進します。

安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上等の視点から、国の無電柱化推進計画に基づき、市・電線等管理者・市民等が一体となって、順次無電柱化に取り組みます。

鎌倉市開発事業等における手続及び基準等に関する条例に基づき、商業系地域その他計画的な市街地整備を行う上で、特に重要と認める地区における開発事業に対し、まちづくり空地を設置するよう誘導します。

【実績】

景観計画に基づき、景観重要公共施設の整備・占用許可を行いました（歩道橋の色彩や標識の配置、形状等）。また、ベルトにおける県・市の公共施設管理者による連絡調整会議を開催し、情報交換と事業調整を行いました。本市のシンボルロードである若宮大路の魅力向上のためのソフト的な取組として、景観協議会設置に向けた検討を行いました。

また、多くの観光客が訪れる小町通り（約600m）は、平成19年度から無電柱化の整備に着手しており、事業推進とともに安全で快適な歩行空間を確保するための環境づくりについて地元商店街・自治会等との協議を継続的に行いました。

民間事業者に対しては、開発事業にあわせ、まちづくり空地の設置を要請し、快適な公共（道路）空間の確保を進めました（歩道状空地を含む）2箇所（面積15㎡）。

大船駅西口歩行者デッキについては、整備計画をまとめ、工事に着手しました。

平成21年4月から路上喫煙禁止条例が施行されることから、駅周辺など路上喫煙禁止区域周辺において既存の標示板（自転車等放置禁止区域）と共同で標示し、また、周囲のまち並みと調和するようデザイン的な配慮を行いました。



自転車等放置禁止区域と路上喫煙禁止区域とを共同で標示

【今後の施策の方向性】

景観計画に基づき、景観重要公共施設の整備・占用許可を行います。また、連絡調整会議の開催により、情報交換と事業調整を行います。若宮大路ベルトでは早期に景観協議会を設置し、施設管理者・関係住民等の連携により、通りの魅力向上に取り組みます。

今後も地元商店街・自治会等と継続的に協議を行い、無電柱化とともに安全で快適な公共（道路）空間づくりに取り組みます。

沿道におけるまちづくり空地の確保について引き続き協議を行います。

H19	H20	H21	H22	H23
景観重要公共施設の整備・占用許可等				
★ 連絡調整会議の設置		★若宮大路における景観協議会設置		
公共サインの維持・管理				
無電柱化工事の事業実施				
ポケットパーク・まちづくり空地の設置誘導				

水辺の環境づくり

【内容】

河川の親水空間の整備や、生態系の回復などを進め、親しみのある河川環境の創出を図ります。また、河川沿いをプロムナードとして整備し、水に親しめる歩行空間の整備を図ります。海岸沿いにおいては、自然と歴史が融和した原風景の継承・回復や海との関わりの中で形成されたまち並みの修景整備、国道134号沿道の顔づくりなど、海浜風致と一体となった景観の保全・整備・創造を図ります。特にベルトや拠点においては、神奈川県等公共施設管理者と連携し、市民等の意見を聴きながら、魅力ある河川・海浜景観創出のための整備方針を策定します。

【推進方法】

景観計画の景観重要公共施設における占用及び整備事業に対する指導を行うとともに、ベルトにおける神奈川県及び鎌倉市の公共施設管理者が情報交換等を行う場をつくり、ベルトにおける良好な景観形成を推進します。

【実績】

景観計画に基づき、景観重要公共施設の整備・占用許可を行いました（橋や海の家色彩等）。また、ベルトにおける公共施設管理者による連絡調整会議を開催し、情報交換と事業調整を行いました。

砂押川沿いでは、市民との協働により、プロムナードの桜の保全再生に向け、「砂押川桜保全再生計画」を策定し、樹勢回復治療等の取組を積極的に進めています。



樹勢回復治療した桜の木

【今後の施策の方向性】

景観計画に基づき、景観重要公共施設の整備・占用許可を行います。また、連絡調整会議の開催により、情報交換と事業調整を行います。また、相模湾岸では、他市との連携により、広域的な景観形成の検討を行います。

砂押川プロムナードにおける桜の保全再生を行い、地域を象徴する景観軸の魅力ある景観形成を進めます。

H19	H20	H21	H22	H23
景観重要公共施設の整備・占用許可等				
★	連絡調整会議の設置			
砂押川プロムナードにおける桜の保全再生				
	★	桜保全再生計画策定		

みどりのまちづくり

【内容】

市街地における緑の回復と創造を図るため、良好な屋敷林や樹木の保全に努めます。特に生け垣の奨励や街路樹、グリーンベルトの整備により、道路緑化の推進を図り、遠景の山並みと調和した緑の景観軸の形成を図ります。また、拠点緑地や斜面緑地の保全、都市公園や広場の修景に配慮した整備に取り組みます。

【推進方法】

道路緑化の推進を図り、遠景の山並みと調和した緑の景観軸の形成を図ります。また、拠点緑地や斜面緑地の保全、都市公園や広場の修景に配慮した整備に取り組みます。

【実績】

都市緑地法に基づき、3地区約296.1haの緑化推進重点地区を設定して、まちづくり事業等に沿った緑化推進等に取り組みました。

都市緑地法に基づき、9地区約315.5haの保全配慮地区を設定して、市民の協力のもとに市民緑地契約の締結や条例による保全措置に取り組みました。

台保全配慮地区内の一部が、かながわトラストみどり基金の活用により買入れ、保全していく緑地の候補地に選定されました。また、同保全配慮地区内の周辺緑地や都市公園等との緑のネットワークを形成する約1.4haの緑地を都市緑地候補地とする施策方針を定めました。

秩序ある市街地の形成や、良好な都市景観の維持に大きな役割を果たす市街地及びその周辺地域の樹林地に対して、土地所有者の協力を得て鎌倉市緑地保全事業推進要綱に基づく緑地保全契約を締結し、保全に取り組んでいます。

風致公園の夫婦池公園（約7.7ha）を整備しました。

また、緑地の寄付を受けました。（1件約0.3ha）



整備された夫婦池公園

【今後の施策の方向性】

公園、河川と結ぶ市街地の緑のネットワークの形成に向け、既設道路などの整備にあわせ、景観計画に配慮した緑化を推進します。

引き続き、鎌倉市緑の基本計画に沿って、秩序ある市街地の形成や良好な都市景観の維持に大きな役割を果たす市街地及びその周辺地域の樹林地を、土地所有者の協力を得て、保全していきます。

都市公園の整備等を引き続き行い、緑豊かな公共空間の創出に努めます。

H19	H20	H21	H22	H23
	緑の基本計画に基づく事業の推進			
	都市公園・広場等の整備			
	道路緑化の推進・維持管理			

魅力的な建物づくり

【内容】

鎌倉らしい都市景観形成の先導的役割を果たす公共建築物は、鎌倉の顔にふさわしい格調高い魅力的なデザインとします。また、公共施設の緑化推進により、地域の中心的施設にふさわしい施設整備を進めます。

【推進方法】

公共建築物の建築に際して先導的な役割を果たすよう景観に関する協議を行います。

【実績】

公共施設（第二中学校）の設計段階において景観アドバイザー制度を利用し、魅力的な施設づくりに向けた協議を行いました。協議では、地域の文脈継承、景観計画への適合の他、施設整備によって地域空間の魅力が向上するような視点からの提案がアドバイザー、設計者等からなされるなど、事業計画の質向上に寄与しました。

また、平成 19 年度に景観アドバイザー制度を活用しながら、施設整備の検討を進めてきた(仮称)川喜多記念館においては、景観形成・活用事業計画を作成し、国土交通大臣の承認を得て、施設整備を進めています（景観形成総合支援事業を活用）。

【今後の施策の方向性】

今後も景観アドバイザー制度等を利用し、公共施設の質向上とともに周辺の空間の魅力向上に積極的に取り組みます。また、景観アドバイザーとの協議過程の整理、施設完成後の評価などを行うことにより、公共施設計画のガイドライン策定に向けた研究を進めます。

H19	H20	H21	H22	H23
景観アドバイザー制度の活用				
	★ 第二中学校の施設整備の検討			
	★ (仮称)川喜多記念館の施設整備の検討	★ 景観形成・活用事業計画の作成		
		景観形成総合支援事業を活用		



第二中学校イメージパース



(仮称)川喜多記念館イメージパース

景観形成総合支援事業

景観法の活用を通じた良好な景観形成による交流人口の拡大を通じた地域振興・活性化を図るため、特に交流人口の拡大の効果が大きく見込まれる景観重要建造物及び景観重要樹木の保全活用を中心とした取組を支援する事業

市民・NPO・事業者との協働・支援

景観づくり賞の実施

【内容】

景観づくり賞の継続的な実施により、都市景観の形成に貢献する市民・NPO等の活動を顕彰するとともに、様々な活動主体を有機的に結びつけるような支援を行います。

【推進方法】

景観づくり賞は、概ね2年に1回、市民ニーズに即したテーマを選定し、実施します。

【実績】

テーマを「まち並みをつくる素敵なかんばん」とし、景観形成推進委員が市民の代表として募集から選考までを行い、第3回景観づくり賞を実施しました。平成20年4月から6月に128件の応募があり、この中から景観づくり賞6件、特別賞3件、奨励賞3件を決定しました。

平成21年3月1日(日)に、表彰式とトークイベントを開催し、受賞者から屋外広告物の創意工夫やまち並みへの思いが参加者に伝えられました。事業の成果として、景観づくり賞の応募・受賞作品の紹介と屋外広告物のデザイン作法をまとめたパンフレットを作成しました。今後、屋外広告物のデザイン協議や市民・事業者に向けた普及啓発に活用していきます。

【今後の施策の方向性】

第3回景観づくり賞の内容は、パンフレットやホームページで景観に調和する屋外広告物の事例として広く周知を図っていきます。

平成22年度の景観づくり賞の実施に向けて検討を進めます。

景観づくり賞の実施により、景観づくりに対する市民意識の醸成に取り組みます。



トークイベントの様子



イベントでのパネル展示

H19	H20		H21	H22	H23
景観づくり賞の実施に向けた検討	募集・選考	☆ 実施	景観づくり賞の実施に向けた検討	☆ 実施	検討

第3回景観づくり賞

景観づくり賞は、都市景観の形成に貢献したと認められる者及び団体を表彰し、これを広く紹介することによって、景観づくりへの意識を高めるとともに、景観づくりに関する市民相互の連携を深めることを目的としています。
今回は第3回にあたり、「鎌倉のまち並みをつくる素敵なかんぱん」をテーマとし、128件の応募(自薦・他薦)がありました。
応募看板の中から、景観形成推進委員が市民の代表として選考を行い、景観審議会の答申を経て、景観づくり賞6件、特別賞3件、奨励賞3件が決定しました。

景観づくり賞

未来につながる特に優れたもの
都市景観の形成に貢献したと認められ、広く人々の規範となる、独自の工夫が見られるものなど

特別賞

地域の景観を印象づける誰かが認めるもの
歴史の積み重ねや人々の係わりから生まれた、誰もが簡単に真似できない特別なもの

奨励賞

広く奨励したいもの
多くの人の協力によって生まれた、まち並みづくりに貢献が認められるもの

景観づくり賞



井上蔭鉢店
住所: 由比ガ浜一丁目12番7号
受賞者: 株式会社井上蔭鉢店

大船田園眼科
住所: 大船二丁目18番36号
受賞者: 大船田園眼科



菊一伊助商店
住所: 由比ガ浜一丁目3番7号
受賞者: 有限会社菊一伊助商店

0467Hasekamicho
住所: 長谷三丁目8番17号
受賞者: 有限会社グリッド



のっぽ動物病院
住所: 岡本二丁目12番2号
受賞者: のっぽ動物病院



豊島屋
住所: 小町二丁目11番19号
受賞者: 株式会社豊島屋



JR鎌倉駅(東口)
住所: 小町一丁目1番1号
受賞者: 東日本旅客鉄道株式会社鎌倉駅

宗達
住所: 由比ガ浜一丁目5番27号
受賞者: 株式会社宗達



ホテルニューカマクラ
住所: 御成町13番2号
受賞者: 株式会社ニューカマクラ

特別賞



松竹メモリアルタイル
住所: 大船六丁目1番
鎌倉女子大学前提供公園
受賞者: 松竹株式会社

豊島屋
住所: 小町二丁目11番19号
受賞者: 株式会社豊島屋



博古堂
住所: 雪ノ下二丁目1番28号
受賞者: 株式会社博古堂

奨励賞



スターバックス コーヒー・CHAYA MACROBIOTICS
住所: 御成町15番11号
受賞者: スターバックス コーヒー鎌倉御成町店
株式会社チャヤマクロビオティクス鎌倉店



シンポジウム、講演会の開催

【内容】

都市景観の形成を進めるため、シンポジウム、講演会の開催のほか、若年層を対象としたセミナーの開催や市政情報宅配便を継続的に実施します。また、市民・NPO等によるシンポジウムやセミナーの開催等、市民主体の啓発活動を支援します。

【推進方法】

親子景観セミナーの開催、学校や自治会等を対象とした「市政情報宅配便」の実施等を通じて、景観づくりの意識啓発に努めます。また、市民が主体的に活動する取組への支援を行います。

【実績】

鎌倉駅地下道ギャラリーで景観づくり賞や屋外広告物などに関する展示（平成 20 年 8 月 21 日～27 日）を行いました。また、市民を対象とした景観法勉強会（財団法人鎌倉風致保存会主催）、歴史的建造物保全活用のための勉強会（世界遺産登録推進協議会主催）等へ講師派遣を行うなど景観形成の普及啓発に取り組みました。

【今後の施策の方向性】

今後も引き続き、まち歩き等のイベントや展示などの情報発信を行い、意識の啓発を行います。

H19	H20	H21	H22	H23
親子景観セミナー	親子景観セミナー	➔		
	★地下道ギャラリー展示 ★市政情報宅配便			

市民活動の支援

【内容】

市民・NPOの活動をさらに発展させ、都市景観の形成に主体的に取り組むことが可能となるような組織の育成を図ります。また、提案制度（都市計画法、景観法）の積極的な活用や市民・NPOによる景観づくり推進のための支援制度の充実を図ります。

【推進方法】

都市景観の形成に主体的に取り組む市民団体への支援を行います。また、景観に関する地域のイベントの支援を行います。

【実績】

北鎌倉景観地区の東寄りのエリアである北鎌倉東地区では、地区独自のルールづくりの検討に向けた協力、支援を行いました。平成20年7月に北鎌倉東地区景観形成協議会を認定しました。

また、材木座三丁目において、景観まちづくりの取組方法について市政情報宅配便による説明会を実施した他、景観重要建築物の活用や路地景観に関するイベント等の後援を行いました。

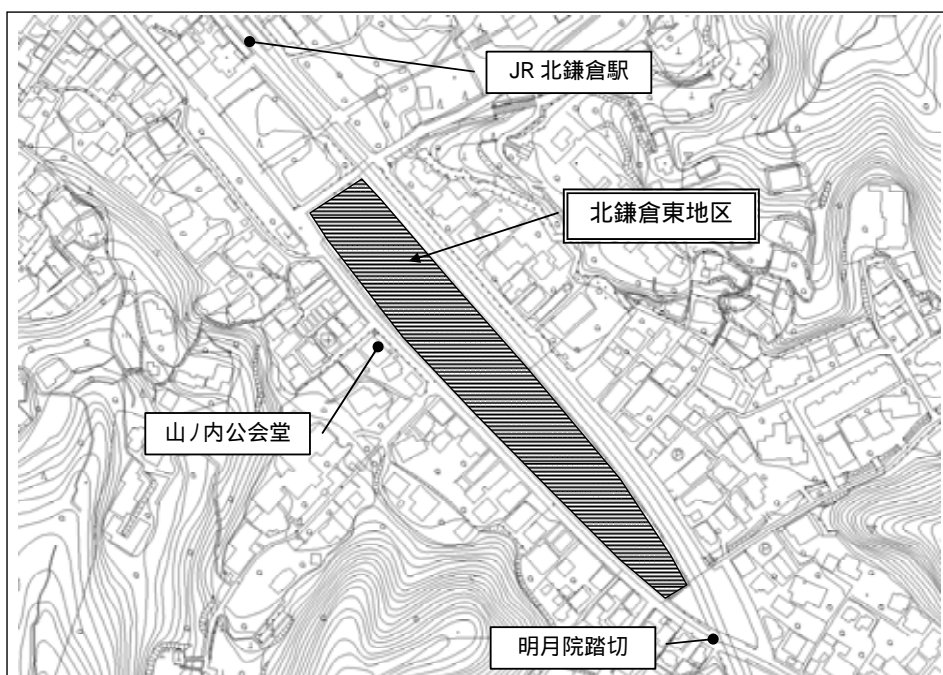


北鎌倉東地区のルールづくり

【今後の施策の方向性】

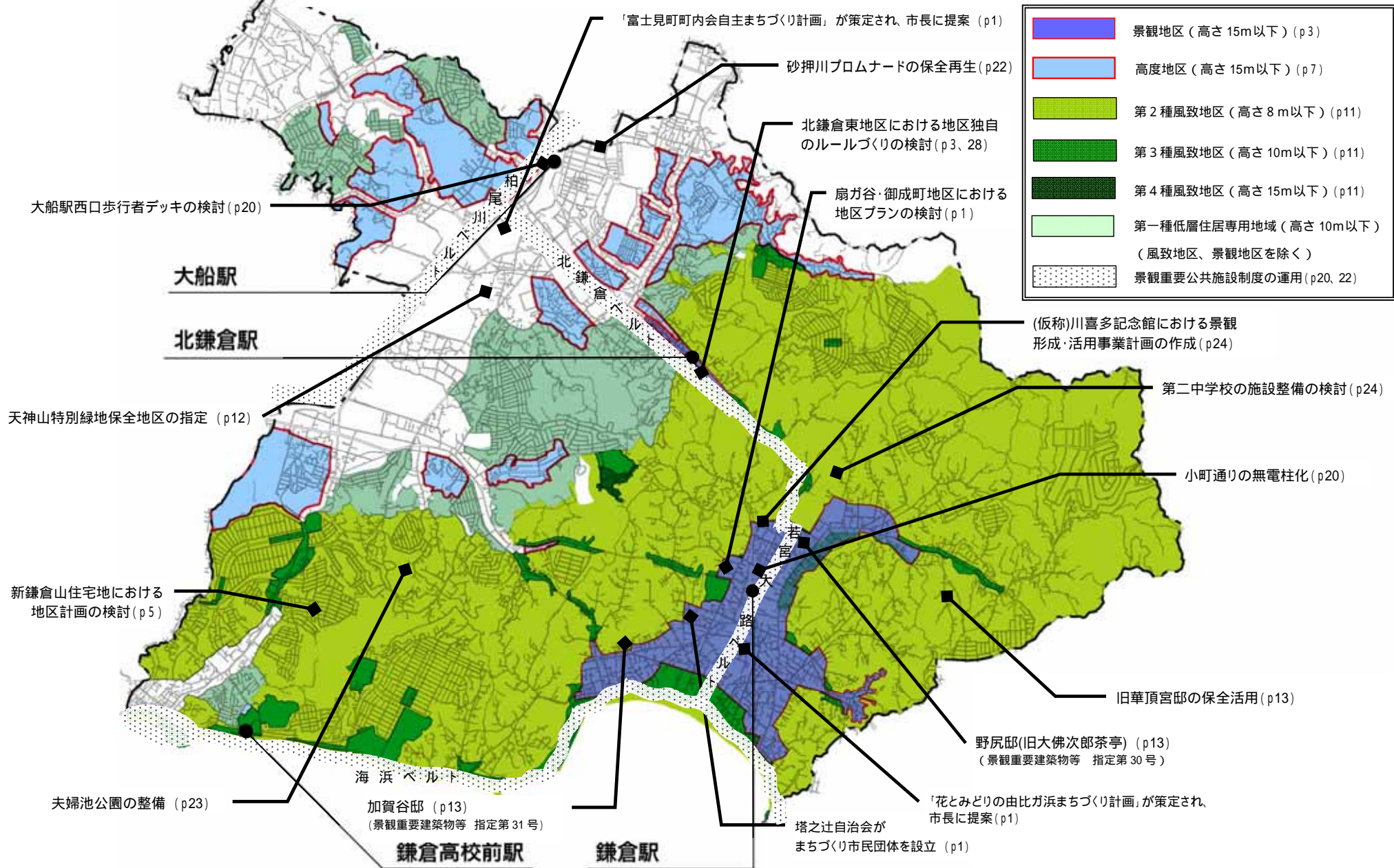
地域のルールづくりの協力やイベントの支援を積極的に行い、市民・NPOによる景観づくりを推進します。

北鎌倉東地区については、詳細な地区独自のルール策定に向けて住民との協働による検討を進めます。



H19	H20	H21	H22	H23
市民活動支援・育成				
北鎌倉地区 のルール 検討	地区のルールの検討	都市計画決定手続		
	★ 景観地区景観形成協議会設立			

市内における景観づくりの取組状況



鎌倉の景観
(鎌倉市景観計画の実績報告)
平成 21 年度版

編集発行 平成 21 年 5 月
鎌倉市景観部都市景観課
〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号
TEL 0467(23)3000 FAX 0467(23)8700
E-mail keikan@city.kamakura.kanagawa.jp
